

2024 年度 東京医科大学 医学部医学科
一般選抜・共通テスト利用選抜

小 論 文

受験番号					フリガナ	
					氏 名	

I. 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子は開いてはいけません。
2. 試験開始後、頁の落丁・乱丁および印刷不鮮明、また解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 試験終了後、解答用紙を回収します。
4. この課題は持ち帰ることができます。ただし、試験終了後、監督者の指示があるまでかばんの中等にしまうことはできません。
5. 監督者の指示に従い、課題及び解答用紙の「受験番号」・「氏名」欄に正しく記入してください。

II. 下記の文章を読み解答してください。

1. 試験時間 : 60分
2. 課題 : 日本語の課題 1 題
3. 解答の仕方 : 解答用紙に記入してください。

下記の文章は、研究者であり看護師でもあった著者が、精神病院で当時「痴呆専門病棟」と呼ばれていた病棟（2004年以降は認知症専門病棟に改称されている）に入院していた長崎さん（女性）と松田さん（男性）の様子を書きとったものです。受験生のみなさんは、人と物、あるいは、物と物が区別できることを当然のこととして生活しています。しかし、ここに登場する長崎さんのように、認知症の症状が進行するなかでそのような区別がだんだんと難しくなってゆく方もいます。

【問題】

下記の文章を読んだうえで、私たちの社会でみなさんのような状態から何年もかけて長崎さんのような状態になってゆくとすれば、そこに至るまでにどのような悩みや苦しみを経験するか考え、次の①～③の3点に触れながら600字以内で述べてください。（*考えた事柄が必ずしも医学的に正確である必要はありません。あなたがこれまでに学んだこと、経験したこと、考えたことを活かして以下の点を考えてください。）

- ① 私たちは、人と物、または物と物をどうやって区別しているのだろうか。
- ② 人と物、または物と物を区別できなくなってゆく過程では、どのような困難や苦しみを経験してゆくのだろうか。
- ③ そのような困難や苦しみは、私たちの社会の状況といかに関連しているのだろうか。

文章は著作権の関係上、掲載できません。

文章は著作権の関係上、掲載できません。

(阿保順子『認知症の人々が創造する世界』より一部改変)

課題は以上です。